

2020(令和2)年度 仏教壮年会連盟「中央研修会」(オンライン開催) 開催報告書

2020(令和2)年度 仏教壮年会連盟「中央研修会」を開催いたしましたので、概要を報告いたします。

記

1. 開催日時 2021(令和3)年2月14日(日) 10:15～15:35
2. 目的 本研修会は、宗門の「御同朋の社会をめざす運動」の理解を深め、仏教壮年としての意識の高揚と自覚を深めるとともに、仏教壮年会活動の推進者を養成する
3. テーマ 今、仏教壮年に求められるもの～災害時、困ったときはお互いさんや～
4. 開催方法 オンライン開催

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、京都・本願寺(仏教壮年会連盟)と各教区教務所・参加者ご自宅等をオンラインで繋いで開催いたしました。

5. 参加人数 43名(26教区より)
6. 講師 谷間 徹誠(仏教壮年会連盟講師)
北山 祐章(仏教壮年会連盟講師)
晨 利信(社会部<災害対策担当>部長)
7. スタッフ <仏教壮年会連盟 研修委員会>
委員長 戸田 勲(兵庫教区)
副委員長 高岡 秀和(大分教区)
委員 夏目健之助(福井教区)
神田 敏行(備後教区)
陣内 巧(熊本教区)

8. 日程
10:15～10:30 開会式
10:40～10:45 研修会のねらい
(戸田 勲 研修委員長)
10:50～11:10 法話
(北山 祐章 仏教壮年会連盟講師)
11:20～11:45 活動について

開会式次第

1. 開式の辞
2. 勤行(讃仏偈)
3. 仏教壮年会連盟綱領
4. 副会長挨拶(高屋頭裕 副総務)
5. 仏教壮年の歌
6. 閉式の辞

①令和2年7月豪雨災害ボランティア活動について

(陣内 巧 研修委員)

②災害支援活動について

(夏目 健之助 研修委員)

③困ったときはお互いさんや。ましてはご門徒さんやし

(戸田 勲 研修委員長)

11:45～13:00 休憩

13:00～13:10 質疑応答

13:10～14:10 班別話し合い

14:25～14:40 班別発表

14:40～15:00 災害支援活動について

(晨 利信 社会部＜災害対策担当＞部長)

15:00～15:25 まとめ(谷間 徹誠 仏教壮年会連盟講師)

15:25～15:30 閉会式

閉会式次第

1. 閉会の辞

2. 理事長挨拶

(倉石 功 理事長)

3. 恩徳讃

4. 閉式の辞

<概要>

1. 研修会のねらい

^{とだ いさお}
(戸田 勲 研修委員長)



研修委員会の戸田委員長より、このたびの研修会のねらいについて説明がありました。

はじめに、このたびの研修会は、本年度の仏教壮年会連盟活動方針の重点項目「災害に対する意識啓発を行い、被災地・被災者への継続的支援活動を実施する」に基づき、テーマを災害支援に絞ったことを説明。

また、研修会のねらいについて、

①災害発生時に仏教壮年が支援活動を行うことについて、あらかじめ考えていただくこと

②班別話し合いにおいて、悩みや研修会で学びたいことを本音で話していただくこと

と説明がありました。

2. 法話

^{きたやま ゆうしょう}
(北山 祐章 仏教壮年会連盟講師)

北山祐章講師より、ご法話をいただきました。

3. 活動について

①令和2年7月豪雨災害ボランティア活動について

じんない たくみ
(陣内 巧 研修委員)



陣内研修委員より、熊本教区として行った令和2年7月豪雨災害ボランティアに、仏壮として会員を派遣した報告がありました。

熊本教区災害ボランティア活動全32回のうちの4回に、熊本教区仏壮連盟として募集をかけ、派遣を行ったこと。真夏にマスクをしての作業でとても暑く、水を含んだ泥だらけの片付けに作業が難航したことなどが報告されました。

また、現地に赴いての活動だけではなく、水害で学用品が流されてしまった子どもたちのために、ランドセルを集めて被害にあった小学校に届ける等、物資の支援活動も行ったとの報告がありました。

仏壮としての派遣が4回までとなった理由として、行政が介入する予定になったことや、新型コロナウイルス感染症の影響があったとの説明がありました。

水害により「全壊」「半壊」となった住宅はすべて解体され、皆さんが仮設住宅等に引っ越しをされたことから、これから先どのように復興していくか、仏壮がこれからどのようなかたちで応援していくか、長い目で考えている状況であることが報告されました。

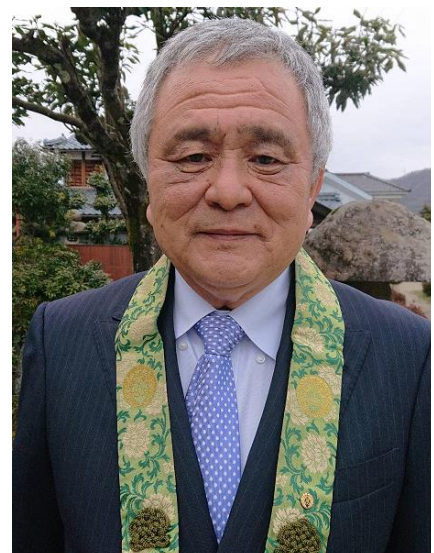
②災害支援活動について

なつめ けんのすけ
(夏目 健之助 研修委員)

夏目研修委員より、東日本大震災の際に、教化団体が連携して行った物資の支援活動について報告がありました。

東日本大震災の被害状況が判明し救援物資が現地に入ってきている状況で、教務所を通じて必要とされている物資を問い合わせ、そのなかで何を送るかを仏壮、仏婦、仏青で協議をしたところ「風呂敷」を集めて送ることになったこと。教化団体、お寺に協力を依頼し、3,000枚の風呂敷が集まり、当時の理事長や役員が段ボール箱に風呂敷を詰め、車で仙台まで届けたことが報告されました。

現在、福井教区では仏壮として災害対策の組織化はし



ていないが、災害発生時には、仏壮、仏婦、仏青、教区全体として募金活動等の支援をしていることが報告されました。

また、中央研修会のテーマ「今、仏教壮年に求められること」について、心の支援はどうか、被災された方々が胸に詰まった思いを話すことによって心の安らぎになるのなら息の長い支援活動になるのではないかと提起がなされました。

若い人たちにも災害の悲惨さを伝え、ご縁をひろげていく活動ができれば。またコロナ禍でもお寺に来てお聴聞させていただけるよう、お寺と仏壮と、二人三脚で活動しようと相談していることが報告されました。

③困ったときはお互いさんや。ましてやご門徒さんやし (戸田 勲 研修委員長)

戸田研修委員長より、兵庫教区の仏教壮年会連盟として、災害発生時に速やかな救援・支援ができるよう支援体制作りに取り組んでいる報告がされました。

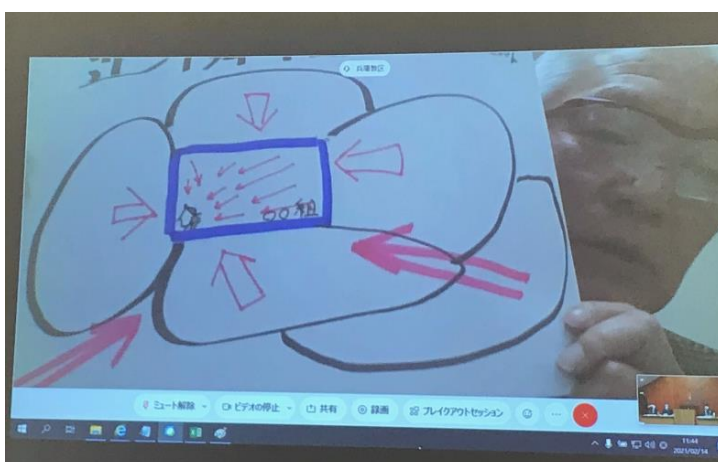
災害対策における仏壮の強みを

- ① 被災寺院のボランティア活動の中心は仏壮であること
- ② 組内や近隣組の仏壮が協力すれば迅速な行動ができる
- ③ 仏壮会員は多岐にわたる職業についているためそれぞれの知識・経験が支援に繋がる
- ④ 仏壮会員の豊富な人脈によるネットワークの活用による人員の確保

と定義し、支援体制作りに取り組んでいること。また、教化団体と連携して活動するなかで、仏壮がリーダーシップを発揮するということが重要であり、仏壮は年齢層が高いためボランティア活動は難しいというご意見もあると思うが、必要物資を聞き取る活動、カメラ

で記録を取る活動等、様々な形態の災害支援活動があるのではないかと提案がされました。

また、コロナ禍のなかで、公的な災害支援派遣や、その他ボランティアの人員も県内在住者のみに限られてしまう可能性があり、その中で仏壮がどのように支援活動をしていくのかという問題提起がなされました。



組内や近隣組の協力について説明する戸田委員長

4. 質疑応答

研修委員からの活動報告について、質疑応答を行いました。

5. 班別話し合い

研修委員からの活動報告を受けて、「今、仏教壮年に求められるもの～災害時、困ったときはお互いさんや～」について、4班に分かれて班別話し合いを行いました。

6. 班別発表

各班の代表者より、班別話し合いでの主な意見が発表されました。

7. 災害支援活動について

はやし 晨 りしん 利信 社会部＜災害対策担当＞部長

晨 社会部＜災害対策担当＞部長より、これまでの発表（活動報告及び班別話し合い）の内容に関連する宗門の災害支援活動について、教務所長として東日本大震災、熊本地震への災害支援対応に携わった経験を踏まえてお話しいただきました。

＜熊本教区の災害支援活動について＞

熊本教区において、度重なる災害を経て支援体制を整えたことで、活動がスムーズになった事例等を紹介いただきました。熊本地震の際は、全国に必要な物資をお願いしたところ、届いたときには2週間から1か月後とタイムラグが生まれ、なかなか必要なところにお届けできなかったのが、令和2年7月豪雨の際は、熊本地震の教訓を活かしてホームページを利用し情報の更新を繰り返したことで、非常に上手く物資が運び届けられたとのことでした。

＜心の支援について＞

心の支援にかかる活動として、東日本大震災の際、東北教区で震災後すぐに始めた仮設住宅でのお茶会の活動を紹介いただきました。スタッフが、決まった場所に継続的に通うことで人間関係が出来て心の悩みを聞かせてもらえるようになった事例を紹介いただき、初めて会った人に自分の思うこと話すのは難しく、継続的に活動して人間関係を築くことが大切とアドバイスをいただきました。

熊本教区では、仏婦、仏壮、ビハーラ、スカウトなど、関係団体の方々にご協力をいただき、仮設住宅の近隣であるが近すぎない地域の方（近すぎたら話しにくい可能性がある）に定期的に訪問いただく方法を取ったという事例も紹介いただきました。

＜災害支援体制について＞

宗門では、非常災害時に備えるため、救援・復興支援活動に従事するボランティア登録

者を宗門内から募ってボランティアネットワークを構築しており、教区の災害ボランティア名簿に登録いただくという形態をとっており、現在、全国で3千名ほどの登録をいただいていると説明いただきました。

また、熊本地震や令和2年7月豪雨の際、九州の各地から色々な物資をお運びいただいたように、仏士の皆さんからも多くのご提言をいただくことで、もっと体制づくりが進んでいくのではないかとご意見をいただきました。

＜「自助・共助・公助」について＞

行政の考え方である「自助・共助・公助」について、「自助」とはまずは「備え」であることを説明いただきました。災害発生時にどう行動するかを想定して、あらかじめ備えられること（家具の移動や避難経路の確保等）について、ご家族でお話しいただきたいとのお話でした。

＜ボランティア活動について＞

「要望のなかで活動する」「危険なことはしない」等、ボランティア活動の原則についてお話しをいただきました。

また、コロナ渦におけるボランティア活動の留意点についての動画（京都府の災害ボランティアセンターの方にお話しいただいたもの）を、宗派の動画配信ホームページにて配信しているので、各教区において教材としてご活用いただければとのご紹介がありました。
※本願寺ブロードキャスト（<https://broadcast.hongwanji.or.jp>）で見ることができます

8. まとめ

たにま てつじょう
(谷間 徹誠 仏教壮年会連盟講師)

最後に、谷間徹誠講師よりまとめのお話をいただきました。

以 上